

第1学年情報科（情報A）学習指導案

日 時：平成19年11月15日(木)第6時限(14:00～14:45)
場 所：本校C A I教室(第3校舎3階)
対象学級：第1学年6組(男子22人、女子19人、合計41人)
教科書：新・情報A 情報社会への招待(日本文教出版)

1. 単元名

第3章 情報を表現しよう

第2節 情報を統合しよう 3 Webページで表現しよう

2. 単元目標

《向上目標》(情意面)

マルチメディア作品を制作する場合、デジタルデータを用いると、より簡単に作品を制作できることを知ることを通して、デジタル化することの良さがわかる。また情報を発信する場合、伝えたい内容を確実に伝えるためにはどのような配慮が必要かを考え、様々な工夫を試みようとしている。

《達成目標》(知識・理解、技能面)

情報発信の実習として、本章では「Webページ作成」「プレゼンテーション」の2つを採り上げている。この2つの実習を通して、発信する対象が異なる時に、それぞれに対してどのような配慮が必要か考え、構成や表現を工夫した上で発信することができる。また、本単元では他の書籍やWebページなどから資料を引用する場合も考えられるので、引用の際の手続きを適切に行い、他者の権利を侵害しないよう配慮することができる。

3. 単元設定の意図

《教材観》

本単元より前に、「アンケート調査の実施と報告書の作成」の実習を通して、情報の収集・処理・発信に関する一連の流れについて指導を行った。

本単元の「Webページ作成」では、不特定多数の人々に情報を伝達する手段として、デザイン・ナビゲーション・ハイパーリンク等の重要性を理解させるとともに、誰もが情報を読みとれるようにするにはどうすればよいのかを考えさせ、アクセシビリティへの配慮ができるようにしていきたい。また、ここで簡単なHTML言語を教材として扱うことで、「情報の科学的な理解」についても説明していきたい。

《生徒観》

対象学級の生徒は明るく活発な生徒が多いように感じている。また、授業に対する取組みも良好である。ただ、本校の生徒は主要教科の予習復習に時間がかかるため、家庭において「情報の宿題(調べ学習など)をする」というのは不可能である。そのため、授業中にしっかりと自分の意見や考えをまとめ、授業時間内に作品を完成させることができるよう注意を払っている。なお、入学段階での情報活用に関する調査結果は右表の通りである。

自分専用のPCがある	7人(17%)
自分専用の携帯電話がある	37人(90%)
中学校でWebページを作成したことがある	8人(20%)

対象学級の情報アンケート結果
(平成19.4 情報科調べ)

《指導観》

情報化社会となった現在、自らがWebページやBlog等を作成し、情報発信していく機会が増えると予測されるので、常に不特定多数の人が見ているのだということを念頭に置いて発信することができるよう、そのための心構えを身に付けさせたいと考える。そのための1つの方法として、自分が作成したWebページを他人に見てもらい、意見を聞くことで、「他人が見やすい、わかりやすいとはどういうことか」について考えさせていきたい。

4. 評価規準

学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
Webサイトの構造やHTML言語に関心を持ち、意欲的に実習に参加する。 アクセシビリティに関心を持ち、どのように配慮していくかを考えようとする。	著作権や肖像権などに配慮してWebページを作成することができる。 わかりやすいWebページにするため、フォントや色づかいなどを工夫することができる。	HTMLタグを用いてWebページのレイアウトを指定することができる。 アクセシビリティに配慮したWebページを作成することができる。	基本的なHTMLタグを理解している。 著作権などの他者を守る権利について理解している。 アクセシビリティの意味・必要性を理解している。

5. 学習計画（指導と評価の計画）

	学習計画・学習活動	評価規準				指導上の留意点
		関	思	技	知	
1	・Webページ制作のポイントを説明する。 ・見本と同じWebページを作成してみる。					・前回の報告書作成と異なり、不特定多数の人を相手にすることを説明する。
2 ・ 3	・自己紹介やクラス紹介などのページを自由に作成する。 ・他の人に見てもらい、修正を行う。					・ハイパーリンクを用いて、ページ間の移動ができるようにさせる。 ・著作権や肖像権などに注意を払うように指導する。 ・不特定多数の人を相手にすることを常に意識させて実習させる。
4	(本時) ・アクセシビリティに配慮するために様々な工夫が必要であることを知り、自分が作成したWebページで実践してみる。					・本時案に記載

6. 本時案

本時のねらい	アクセシビリティへの配慮を含め、Webページを作成するには、不特定多数の人が閲覧することを考慮する必要があることを知り、自分が作成したWebページで実践してみる。
本時 / 時数	4時間目 / 4時間
教材	・教科書 P108～111、裏表紙 ・活用テキスト（パソコン検定協会事務局） P90～102
実習内容	各自がアクセシビリティについて調べる。そして調べた事柄を参考にして、前時に作成したWebページをアクセシビリティに配慮した形に修正する。
準備	・アクセシビリティについてまとめたスライド ・質問内容を記入したプリント ・ソフトウェア（テキストリーダー）

学習過程

	学習内容および学習活動	教師の支援・指導上の留意点
導入 (3分)	パソコンにログインする。 前回の実習内容を確認する。	・起動をし、待っている間に前回の確認を行う。
展開	<p>不特定多数の人が正しく閲覧できるようにするため、どのような配慮が必要なのかということについて説明を聞く。（このとき、前時に説明を受けたWebセーフカラーについても配慮の1つであることを確認する。）</p> <p>アクセシビリティについて、説明を聞いた内容、およびプリントの質問をインターネットで調べまとめる。 《質問内容は、「アクセシビリティとユーザビリティの違い」と「具体的な配慮の方法」についてである。》</p> <p>テキストリーダのソフトについて知る。</p>	<p>・OSによる見え方の違いやハンディキャップを持った人がインターネットに接続した場合など、様々なことが想定されることを説明する。</p> <p>・アクセシビリティの定義、及び必要性について説明する。</p> <p>・机間巡回を行いながら、よい解答を探り上げ、全員のプリントに記入させる。</p> <p>・テキストリーダのソフトを起動し、本校のWebページがどのように読み上げられるのかを実際に操作してみる。</p>
まとめ (3分)	<p>今までに習ったことを踏まえて、以下の内容（タグ）を自分のWebページに入力（もしくは修正）してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> alt属性 テキストリーダで読まれることを想定した文字 他、授業中に解答があった「具体的な配慮」 	・アクセシビリティだけでなく、ユーザビリティにも配慮をさせる。
	Webページだけでなく、誰もが支障なく社会生活ができるようにするためには、色々な配慮が必要であることを再認識する。	・社会の一員として、これらの配慮が必要であることを説明する。